

[分 類] 普及技術

[成果名] りんごのハマキムシ類防除にディアナWDGが有効である

[要 約] りんごのハマキムシ類防除にディアナWDGの 10,000 倍液を散布する。蚕に対して長期間毒性があるので、桑葉付近では使用しない。マメコバチやミツバチに影響があるので、訪花活動期間中は使用しない。

[担 当] 果樹試験場環境部

[部 会] 病虫害部会

## 1 背景・ねらい

ディアナWDGは、果樹でほとんど使用されてこなかったスピノシン系に属する殺虫剤である。農薬抵抗性発達の遅延に向けた殺虫剤のローテーション使用の一助として、ディアナWDGのりんごのハマキムシ類に対する防除効果を調査し、有効性が確認できたので今回普及技術とした。

## 2 成果の内容・特徴

(1) りんごのハマキムシ類防除にディアナWDGの 10,000 倍液を散布する。

農薬登録内容

ディアナWDG

[一般名及び成分含量] スピネトラム 25% (IRACコード<sup>(注)</sup>: 5)

[毒性] 人畜毒性: 毒物、劇物には該当しない [魚毒性] A類相当

[対象作物に対する適用登録状況 (平成 26 年 10 月 1 日 JPP-NET 確認)]

作物名	適 用 害 虫	希釈倍数	散布液量	使用時期	本剤及びスピネトラムを含む農薬の総使用回数	使用 方法
りんご	キンモンホソガ ハマキムシ類 シンクイムシ類 ケムシ類 ヨモギエダシャク ギンモンハモグリガ	5,000 ～ 10,000倍	200～700 ℓ/10 a	収穫前日 まで	2回以内	散布

IRACコード<sup>(注)</sup>とは、IRAC（殺虫剤抵抗性対策委員会）が定める殺虫剤の作用機構による分類で、同じコードは同一系統を表す。詳細は農業工業会のホームページ (<http://www.jcpa.or.jp>) を参照する。

## 3 利用上の留意点

- (1) 本剤は、土壌放線菌が生成する活性物質に由来した化合物で、スピノシン系に属する殺虫剤である。神経系に作用し速効的に効果が発現する。
- (2) 蚕に対して長期間毒性があるので、桑葉付近では使用しない(蚕に1ヵ月間は毒性あり)。
- (3) マメコバチ、ミツバチに対して影響があるので、訪花活動期間中は使用しない。
- (4) 眼に対して刺激性があるので、眼に入らないよう注意する。
- (5) 連用は避け、作用性が異なる薬剤とローテーションによる使用とする。

## 4 対象範囲

県下全域、りんご栽培地域 7,950ha

## 5 具体的データ

ディアナWDG10,000倍は、りんごのトビハマキに対して対照薬剤のフェニックスフロアブル4,000倍よりやや速効的で、高い防除効果が認められた（表1）。

リンゴコカクモンハマキに対して、対照薬剤のダズバンDF3,000倍と同等の高い防除効果が認められた（表2）。両試験とも、葉に対する薬害はみられなかった。

表1 りんごのトビハマキに対するディアナWDGの防除効果（平成26年、果樹試験場）

供試薬剤	希釈倍数	生幼虫数（2反復の合計）		薬害
		散布前	散布7日後	
ディアナWDG	10,000	44	0	なし
フェニックスフロアブル	4,000	45	5	なし
無処理		57	52	

場所：果樹試験場内 発生状況：接種 品種：「ふじ」（マルバカイドウ台木樹）、強剪定樹、成木  
面積・区制：1区1樹 2反復

処理方法：6月10日 2リットル/樹散布（マイリノー10,000倍加用）

調査日：6月4～6日に2齢幼虫を網掛け放虫し、散布前（6月9日）、散布7日後に生幼虫数を計数

表2 りんごのリンゴコカクモンハマキに対するディアナWDGの防除効果

（平成26年、果樹試験場）

供試薬剤	希釈倍数	生幼虫数（2反復の合計）		薬害
		散布前	散布6日後	
ディアナWDG	10,000	71	1	なし
ダズバンDF	3,000	80	0	なし
無処理		60	44	

場所：果樹試験場内 発生状況：接種 品種：「ふじ」（マルバカイドウ台木樹）、強剪定樹、成木  
面積・区制：1区1樹 2反復

処理方法：9月19日 2リットル/樹散布（マイリノー10,000倍加用）

調査日：9月17日に2～3齢幼虫を網掛け放虫し、散布前（9月19日）、散布6日後に生幼虫数を計数

## 6 特記事項

[公開] 制限なし

[課題名、研究期間、予算区分]

果樹の病害虫に関する素材開発研究、平成26年度(2014年度)、素材開発